

# 日光演習林太郎山地区の維管束植物相

誌名	宇都宮大学農学部演習林報告 = Bulletin of the Utsunomiya University Forests
ISSN	02868733
著者名	岡田,啓一郎 福沢,朋子 逢沢,峰昭 大久保,達弘
発行元	宇都宮大学農学部
巻/号	55号
巻号補足	
掲載ページ	p. 21-38
発行年月	2019年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 日光演習林太郎山地区の維管束植物相 Flora of vascular plants in Mt. Taro-san section in Utsunomiya University forest in Nikko

岡田 啓一郎<sup>1</sup>・福沢 朋子<sup>2</sup>・逢沢 峰昭<sup>1</sup>・大久保 達弘<sup>1</sup>  
Keiichiro OKADA<sup>1</sup>, Tomoko FUKUZAWA<sup>2</sup>, Mineaki AIZAWA<sup>1</sup>, Tatsuhiro OHKUBO<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 宇都宮大学農学部森林科学科 〒 321-8505 宇都宮市峰町 350  
Department of Forest Science, School of Agriculture, Utsunomiya University,  
350 Mine-machi, Utsunomiya, Tochigi 321-8505, Japan

<sup>2</sup> 東京農工大学大学院連合農学研究科環境資源共生科学専攻 〒 321-8505 宇都宮市峰町 350  
Department of Symbiotic Science of Environment and Natural Resources,  
United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology,  
350 Mine-machi, Utsunomiya, Tochigi 321-8505, Japan

### はじめに

奥日光は栃木県北西部にあり、最高峰の白根山（標高 2,578 m）を筆頭とし、旧日光市と奥鬼怒との境に沿って東に山王帽子山（標高 2,077 m）、太郎山（標高 2,368 m）、大真名子山（標高 2,375 m）、小真名子山（標高 2,323 m）、さらには男体山（標高 2,486 m）、女峰山（標高 2,483 m）、赤薙山（標高 2,010 m）と 2,000 m 級の火山群が連なり、日光連山を形成している（日光の動植物編集委員会 1986）。

宇都宮大学農学部附属日光演習林太郎山地区は、太郎山の南斜面中腹部から男体山の北側斜面山麓の標高 1,500 ~ 1,970 m に位置する。太郎山地区の総面積は 200.57 ha で、うち林地面積は 125.71 ha である。1971 年に当時国有林であった宇都宮営林署日光事業区 1100 林班が有償移管され、日光演習林太郎山地区として発足した。現在は太郎山地区全域が国立公園第 2 種特別地域に指定されているほか、水源涵養等の保安林や鳥獣保護区に指定されている。また、土砂流出防備として砂防堰堤が 50 基ほど設置されている。このような性質から太郎山地区は、収益性を重視した林業経営よりも実習・研究・教育を目的とした場になっている。太郎山地区では、これまでに基本図の作成および蓄積量調査（内藤未発表）、林相図および山火事と施業履歴についての調査（田宝ら 2014）がなされているものの、維管束植物相に関する調査はなされていない。このような植物相の情報は、森林植物学や森林生態学に関わる研究のほか、森林の保全や管理などの基礎情報として重要である（島田ら 2014）。そこで本研究では、日光演習林太郎山地区の維管束植物の多様性を把握するための基礎資料として、維管束植物目録を作成することを目的とした。

### 調査地と方法

#### 調査地

本調査地は日光演習林太郎山地区の全域である（図 1）。なお、日光演習林戦場ヶ原地区については調査を行わなかった。太郎山地区西部の標高 1,500 ~ 1,600 m には起伏の緩やかな地形が広がっており、大部分は林齢 48 ~ 81 年生（2017 年時点）のカラマツ *Larix kaempferi* 人工林が占めている。これ以外は天然生林であり、ダケカンバ *Betula ermanii*・コメツガ *Tsuga diversifolia* 林、ダケカンバ林、コメツガ林というように、太郎山地区全体ではコメツガ、ダケカンバが優占する林相が大部分を占めている（田宝ら 2014）。標高 1,800 m 以上では、シラビソ *Abies*

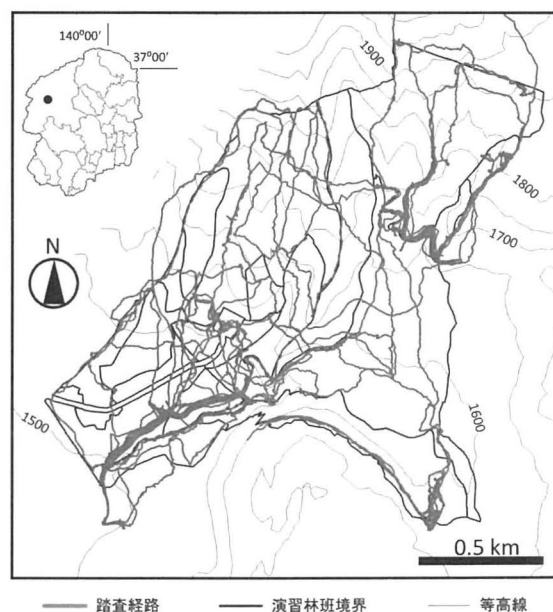


図-1 日光演習林太郎山地区の位置図と踏査ルート

veitchii 林のほか、シラビソ・オオシラビソ *Abies mariesii* 林やシラビソ・ダケカンバ林がみられる（田宝ら 2014）。これら太郎山地区の天然生林は、林内に多数の伐根がみられることから、大学移管前の国有林時代（1971 年以前）に択伐が行われた結果生じたものと考えられている（田宝ら 2014）。

太郎山地区のほぼ中央には、ダイタンボウ沢の大崩壊が南北方向に走り、新薙、軽石沢、キティ沢および御真仏薙といった崩壊地が東西方向に数多くみられる。また、太郎山地区南側の演習林境界近くには、上流から流出した土砂が堆積した御沢が東西方向に流入している。ここは、御沢金剛峯とも呼ばれ、切り立った大きな岩壁が迫った廊下地形をなしている（写真-1）。太郎山地区の基岩は、第四紀末期の火山岩類である石英安山岩で形成されている（日光の動植物編集委員会 1986）。

過去 30 年間（1981～2010 年）の年平均気温を、太郎山地区から最も近い中禅寺湖畔の日光中宮祠日光特別地域気象観測所（N36°44.3'、E139°30.0'、標高 1,292m）の気温データ（気象庁 2017）と、太郎山地区のおよその最低標高（標高 1,500 m）との標高差から、気温の逓減率（ $-0.55^{\circ}\text{C}/100\text{ m}$ ）を用いて算出すると、年平均気温は  $5.8^{\circ}\text{C}$ 、暖かさの指数は 47.4、寒さの指数は  $-37.3$  である。したがって、太郎山地区の大部分は亜寒帯に属している。日光中宮祠における年平均降水量は 2,176 mm、年平均最深積雪量は 45 cm である（気象庁 2017）。

#### 調査方法

本研究では、維管束植物（シダ植物、被子植物および裸子植物）を調査対象とした。さらに、見つかった維管束植物を「自生植物」のほか、木材生産のために植林された「植栽植物」、植栽植物以外の外国産種が国内種として定着した植物である「帰化植物」の 3 つに区分した。

太郎山地区全域を踏査しながら、目視で確認を行える範囲内で、未採集種と思われる維管束植物が出現するごとに逐次採集して持ち帰り、同定およびさく葉標本を作製した。また、採集時に採集年月日、採集者および採集箇所地理情報を GPS 受信機 GPSMAP 60CSx（GARMIN 社）により記録した。併せて、踏査経路を GPS 受信機 MONTANA650（GARMIN 社）で記録した。なお、採集済みの植物

であると明らかに判断できる場合には、原則として採集および位置情報などの記録は行わなかった。

調査期間は 2017 年 6 月上旬～11 月中旬である。調査日数はのべ 19 日、調査人数は 1 日あたり 2～5 人、のべ 69 人であった。踏査距離の総延長距離は約 91 km であった。踏査経路は図-1 に示した。

#### 維管束植物目録の作成

対象植物の学名は、「日本維管束植物目録」（米倉・邑田 2012）および YList（[http://ylist.info/ylist\\_simple\\_search.html](http://ylist.info/ylist_simple_search.html)）に従った。植物目録を作成するにあたって、目、科、属および種の配列は「日本維管束植物目録」（米倉・邑田 2012）、「維管束植物分類表」（米倉・邑田 2013）に従い、APGIII 分類体系に準拠した。植栽植物の外国産樹種と、帰化植物の中で上記文献に未記載である種は、それぞれ該当する属内の種の配列の末尾に挿入した。また、目録内全種の生活型は、酒井ら（1994）の分類方法に加えて、「日本植生便覧」（宮脇 1978）と「日本野生植物館」（奥田 1997）を参考に分類した（目録の凡例参照）。

帰化植物は、原色帰化植物図鑑（長田 1976）に記載のある種を対象に抽出した。そして、帰化率（本研究で見つかった全維管束植物数に対する帰化植物種数の割合）を算出した。

#### 結果と考察

##### 日光演習林太郎山地区の維管束植物相

本研究で採集した植物の総個体数は 400 個体、出現した種数は自生植物 66 科 156 属 248 種、帰化植物 2 科 3 属 3 種、植栽植物 1 科 2 属 2 種、全体では 67 科 160 属 253 種であった（表-1；目録）。分類群別では、小葉類 1 科 1 属 1 種、大葉シダ 8 科 9 属 14 種、裸子植物 2 科 7 属 11 種、基部被子植物 1 科 1 属 1 種、単子葉植物 8 科 24 属 40 種、真正双子葉植物 47 科 118 属 186 種であった（表-1；目録）。

航空写真判読・現地踏査を実施した先行研究では、太郎山地区の標高 1,800m 以上ではシラビソを中心とした亜高山帯林が形成されている（田宝ら 2014）。本調査でも、高木・亜高木層では、常緑針葉樹であるシラビソ、オオシラビソ、コメツガに加え、キタゴヨウ *Pinus parviflora* var. *pentaphylla*、ネズコ *Thuja standishii* およびアスナロ *Thujopsis dolabrata* がみられた。落葉広葉樹では、ネコシデ *Betula*

表-1 日光演習林太郎山地区の維管束植物

分類群	自生植物			帰化植物*			植栽植物**			合計		
	科	属	種	科	属	種	科	属	種	科	属	種
小葉類	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	1
大葉シダ	8	9	14	-	-	-	-	-	-	8	9	14
裸子植物	2	6	9	-	-	-	1	2	2	2	7	11
大葉類												
基部被子植物	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	1
被子植物												
単子葉植物	8	24	40	-	-	-	-	-	-	8	24	40
真正双子葉植物	46	115	183	2	3	3	-	-	-	47	118	186
合計	66	156	248	2	3	3	1	2	2	67	160	253

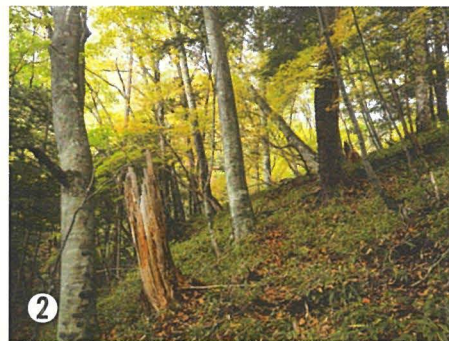
\*外国産植物

\*\*木材生産および試験的に植えられた植物

*corylifolia*、オガラバナ *Acer ukurunduense*、タカネザクラ *Cerasus nipponica* var. *nipponica*、ハウチワカエデ *Acer japonicum*、ヒロハカツラ *Cercidiphyllum magnificum* およびハクサンシャクナゲ *Rhododendron brachycarpum* などがみられた。草本層では、タケシマラン *Streptopus streptopoides* subsp. *japonicus*、コバノイチヤクソウ *Pyrola alpina*、カニコウモリ *Parasenecio adenostyloides*、コケモモ *Vaccinium vitis-idaea*、ミツバオウレン *Coptis trifolia*、コセリバオウレン *Coptis japonica* var. *japonica* およびシラネウラボ *Dryopteris expansa* などがみられた。このように太郎山地区の標高 1,800 m 以上の植生は太平洋側の亜高山帯林の代表種で構成されていた。標高 1,800 m 以下では、コメツガやダケカンバを主体とした森林のほか、ウラジロモミ *Abies homolepis* やミズナラ *Quercus crispula* を主体とした針広混交林もみられた。落葉広葉樹では、シナノキ *Tilia japonica*、ブナ *Fagus crenata*、キハダ *Phellodendron amurense*、ウリハダカエデ *Acer rufinerve*、オオイタヤメイゲツ *Acer shirasawanum*、ハルニレ *Ulmus davidiana* var. *japonica*、

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* およびウダイカンバ *Betula maximowicziana* などがみられた。草本層では、シロヨメナ *Aster ageratoides* var. *ageratoides*、キオン *Senecio nemorensis*、ヒメスゲ *Carex oxyandra* などのシカの嗜好性植物が目立った。沢沿いでは、サワギク *Nemoseneo nikoensis*、ズダヤクシュ *Tiarella polyphylla*、ヤグルマソウ *Rodgersia podophylla*、ソバナ *Adenophora remotiflora* およびヤマタイミンガサ *Parasenecio yatabei* など落葉広葉樹林性の種がみられた。シカの嗜好植物であるオシダ *Dryopteris crassirhizoma*、ヤマタイミンガサ、ヤグルマソウ、ミヤマエンレイソウ *Trillium tschonoskii* など（橋本・藤木 2014）は、シカが接近できない御沢金剛峡や沢沿いの岩壁などでみられた。奥日光ではシカの増加と採食による林床植生の変化が顕在化しており（長谷川 2000, 2008）、太郎山地区の草本層においてもその顕著な影響がみられた。

本調査において特筆すべきは、太郎山地区の標高 1,600 m 付近でまとまったブナの群落が見つかったことである（写真-2）。本群落は、林床にミヤコザサ



## 写真

- 1: 御沢金剛峡  
(2017/09/19 岡田撮影)
- 2: 標高 1,600 m 付近のブナ群落  
(2017/10/08 岡田撮影)
- 3: 御沢の岩上のツガザクラ  
(2017/08/26 朝倉撮影)
- 4: 岩壁に着生するミヤマウラボシ  
(2017/09/19 片桐撮影)
- 5: ミヤコザサ林床下のシャクジョウソウ  
(2017/08/19 岡田撮影)
- 6: カラマツ人工林林床下のショウキラン  
(2017/07/09 岡田撮影)

*Sasa nipponica* が繁茂しており、林冠ではコメツガやウラジロモミといった針葉樹が混生していた。先述のように、太郎山地区の標高 1,500 m 地点の暖かさの指数は 47.4 であり、ブナ帯の水平分布の北限である北海道黒松内の暖かさ指数は WI 45 とされる (館脇 1955) ことを考慮すると、太郎山地区のブナ群落はブナの垂直分布限界に位置するものと考えられる。太郎山地区のような本州の亜高山帯と山地帯の移行部では、ブナが混生する針広混交林はしばしばみられる (小川ら 2006) が、奥日光ではブナ群落は少なく、湯ノ湖畔 (標高 1,520 m; 館脇ら 1966) や西ノ湖畔 (標高 1,360 m; 館脇ら 1966)、男体山南斜面 (古籬左岸の標高 1,420 m; 館脇ら 1966; 薄井 1958) で知られている程度であった。本研究でみつかったブナ群落は奥日光でも高い標高にあり、貴重な群落といえるだろう。

さらに、太郎山地区の下部は山地帯に区分されるにも関わらず、高山帯～亜高山帯にかけて出現頻度の高い植物が、標高 1,513 ~ 1,970 m と幅広い標高域に分布していた。とりわけ、コメススキ *Avenella flexuosa*、ツガザクラ *Phyllodoce nipponica* (写真-3) およびイワオトギリ *Hypericum senanense* subsp. *mutiloides* のような岩場や砂礫地に生育する性質を持つ植物が、崩壊地沿いを中心に分布していた。高山に生育する植物は風衝地斜面や急斜面の崩壊地に成立する 경우가多く (奥田 1997)、火山性の砂礫の流下の際しい環境下では、高山性の植物が下降して垂直分布が乱れることがある (沼田・岩瀬 2002)。これは、岩塊上など土壌発達が進んでいない場所では高木性樹種の侵入が阻害されるため (石井ら 2009) と考えられる。太郎山地区の下部にはダイタンボウ沢などの大きな崩壊地が存在するため、砂礫の流下によって、岩場や砂礫地に生育する高山性植物が下降することで、多様な植物相が形成されていると考えられる。このほか、稀に見られた植物として、岩壁に着生していたミヤマウラボシ *Selliguea veitchii* (写真-4)、ミヤコザサ林床にみられたシャクジョウソウ *Monotropa hypopithys* (写真-5)、カラマツ林の林床にみられたショウキラン *Yuania japonica* (写真-6) が特筆される。

太郎山地区の帰化植物は、シロツメクサ *Trifolium repens*、ヘラバヒメジョオン *Erigeron strigosus* およびセイヨウタンポポ *Taraxacum officinale* の 2 科 3 属 3 種であり、帰化率は 1.2% であった。シロツメクサは市街地から山地の道端・荒地に、ヘラバヒメジョオンは比較的乾いた丘陵や川岸の土手に、セイヨウタンポポは市街地から里山の道端や荒地に、いずれもふつうにみられる (清水 2003)。このうちシロツメクサに関しては、栃木県自然環境調査研究会植物部会 (2003) では、太郎山、男体山、女峰山および日光市における標本または文献の記載はなく、この地域では珍しい。これら 3 種の帰化植物は、カラマツ人工林や林道沿いの砂利に生育していた。帰化植物の侵入は、人為的な開発と踏圧の累積などで嗜好的環境が形成された場合に発生する (Konta and Shimizu 2002) ことから、治山工事などにもなう

人為的活動によってもたらされたものと考えられる。これまでの報告によると、一般的に多くの帰化植物は標高 1,000 m 以下で定着することが多く、標高 1,000 m 以上の山地帯上部から亜高山帯に分布できる帰化植物は少数である (Konta and Shimizu 2002)。しかし、富士山の標高 1,500 m 以上でシロツメクサとセイヨウタンポポ (Konta and Shimizu 2002) が、北アルプス乗鞍岳の標高 2,000 m 以上の亜高山帯でシロツメクサとセイヨウタンポポ (清水 1990) が、長野県美ヶ原の標高 2,000 m でシロツメクサ、ヘラバヒメジョオン、セイヨウタンポポ (美ヶ原の自然と風土を考える会 1999) がそれぞれ観察されている。特に富士山では、約 50 年間で帰化率が 0.5% から 5% へと上昇したとされる (Konta and Shimizu 2002)。したがって、太郎山地区における帰化植物は現在少数ではあるが、今後の動向を注視する必要があるだろう。

### 謝辞

本研究を行うにあたり、宇都宮大学農学部森林科学科森林生態学・育林学研究室の諸氏には現地調査および研究をまとめる上で多大なご協力をいただいた。森林科学科森林計画学研究室の松英恵吾准教授より日光演習林太郎山地区の地理情報の提供をいただいた。附属演習林の教職員の方々には調査の際に温かいご対応をいただいた。以上の方々には心よりお礼申し上げます。

### 引用文献

- 長谷川順一 (2000) ニホンジカの食害による日光白根山の植生の変化. 植物地理・分類研究 48: 47-57.
- 長谷川順一 (2008) 栃木県の自然の変貌 - 自然の保全はこれでよいのか. 自刊.
- 橋本佳延・藤木大介 (2014) 日本におけるニホンジカの採食植物・不嗜好性植物リスト. 人と自然 25: 133-160.
- 石井浩之・中田 誠・加々美寛雄・平 英彰 (2009) 長野県黒姫山の亜高山帯に成立する高山性植物群落の立地条件. 植生学会誌 26: 21-32.
- 加藤雅啓・海老原淳 (2011) 日本の固有植物 (国立科学博物館叢書 11). 東海大学出版会.
- 気象庁 (2017) <http://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>.
- Konta F, Shimizu T (2002) Naturalized plants of Mt. Fuji, central Japan. Nat Sci Mus 38: 95-107.
- 館脇 昭 (1978) 日本植生便覧. 至文堂.
- 日光の動植物編集委員会 (1986) 日光の動植物. (日光の動植物. 田中 正編, 栃の葉書房). 89-90.
- 沼田 眞・岩瀬 徹 (2002) 図説 日本の植生. 講談社.
- 小川みふゆ・上條隆志・磯谷達宏・福田廣一 (2006) 鬼怒川源流域の山地帯 - 亜高山帯移行部に成立する針広混交林の組成・構造および植生地理学的位置づけ. 植生学会誌 23: 105-117.
- 奥田重俊 (1997) 日本野生植物館. 小学館.
- 長田武正 (1976) 原色帰化植物図鑑. 保育社.
- 酒井 敦・大久保達弘・谷本丈夫 (1994) 宇都宮

- 大学船生演習林の高等植物目録. 宇大演報 30 : 27-58.
- 鳥田和則・勝木俊雄・岩本宏二郎・大中みちる (2014) 東京多摩地方南西部の都市近郊林における植物相の変遷 - 50年間のフロラリストの比較 -. 植生学会誌 31 : 71-84.
- 清水建美 (1990) 乗鞍の自然. 信濃毎日新聞社.
- 清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社.
- 田宝 遼・逢沢峰昭・大久保達弘 (2014) 日光演習林の林相タイプと過去の山火事. 宇大演報 50 : 85-90.
- 舘脇 操 (1955) 汎針広混交林帯. 北方林業 7 : 240-243.
- 舘脇 操・伊藤浩司・遠山三樹夫・横溝康志 (1966) 奥日光の森林植生. 北大演報 24 : 291-497.
- 栃木県自然環境調査研究会植物部会 (2003) 栃木県自然環境基礎調査とちぎの植物 I. 栃木県林務部自然環境課.
- 薄井 宏 (1955) 奥日光の森林植生 第一報 男体山の部. 宇大農学報 3 : 18-30.
- 薄井 宏 (1958) 太平洋-日本海気候域境界における森林植生 - 男体山をのぞく奥日光の山岳森林 -. 日林誌 40 : 332-342.
- 美ヶ原の自然と風土を考える会 (1999) 美ヶ原高原植物調査報告書.
- 米倉浩司・邑田 仁 (2012) 日本維管束植物目録. 北隆館.
- 米倉浩司・邑田 仁 (2013) 維管束植物分類表. 北隆館.

日光演習林太郎山地区維管束植物目録  
Flora of vascular plants in Mt. Taro-san section  
in Utsunomiya University forest in Nikko

凡 例

1. 対象植物は、維管束植物（シダ植物、被子植物および裸子植物）とした。さらに、維管束植物を調査区域内の「自生植物」のほか、木材生産のために植林された「植栽植物（植栽）」、植栽植物以外の外国産種が国内種として定着した植物である「帰化植物（帰化）」の3つに区分した。また、自生植物のうち「日本の固有植物」（加藤・海老原 2011）に記載のあるものを「固有植物（固有）」とした。なお、備考に植栽植物、帰化植物、固有植物は上記の括弧内の略語を付した。
2. 対象植物の学名は、「日本維管束植物目録」（米倉・邑田 2012）および YList に従った。植物目録を作成するにあたって、目、科、属および種の配列は「日本維管束植物目録」（米倉・邑田 2012）、「維管束植物分類表」（米倉・邑田 2013）に従い、APGIII 分類体系に準拠して分類した。植栽植物の外国産樹種と、帰化植物の中で上記文献に未記載である種は、それぞれ該当する属内の種の配列の末尾に挿入した。
3. 目録内全種の生活型は、酒井ら（1994）の分類方法に加えて、「日本植生便覧」（宮脇 1978）と「日本野生植物館」（奥田 1997）を参考に次のように生活型を分類した。

EG 常緑性シダ植物  
SG 夏緑性シダ植物  
WG 冬緑性シダ植物  
ECT 常緑針葉高木  
DCT 落葉針葉高木  
EBT 常緑広葉高木  
DBT 落葉広葉高木  
EBST 常緑広葉小高木  
DBST 落葉広葉小高木  
EBS 常緑広葉低木  
DBS 落葉広葉低木  
TH 一年生草本  
WH 越年生草本  
PH 多年生草本  
CW つる性木本  
CH つる性草本  
E 着生植物

4. 採集した植物の生育環境を次のように省略して記した。

岩壁	急な岩場
崩壊地	雑など地面が崩れて土壌が浅い場所
岩上	大きな岩の上の浅い土壌のある場所
岩地	やや大きめの岩の隙間や岩上
砂利	細かい石の多い場所
砂防ダム	砂防堰堤付近などの場所
水辺	林内の水源地、小川の傍
沢沿い	涸れ沢、御沢金剛峡など
ギャップ	林内の開けた箇所
林内	傾斜の緩い林内の草本層から高木層
ササ林床	ササ群落内
倒木上	倒木の上
橋上	演習林の南西に位置する無名橋上
道端	林道沿い
登山道	太郎山の登山道沿い
尾根	土壌が比較的浅い尾根上
林縁	高木層のない砂利地ではない場所

科	Family	種名	Species	生活型	生育環境	備考
小葉類 LYCOPHYTA						
ヒカゲノカズラ類 LYCOPODIOPHYTA						
ヒカゲノカズラ目 Lycopodiales						
	Lycopodiaceae	ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> L.	EG	沢沿い, 岩上	
大葉類 EUPHYLLOPHYTA						
大葉シダ植物 MONILOPHYTA						
コケシノブ目 Hymenophyllales						
	Hymenophyllaceae	コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i> Bosch	E	水辺, 沢沿い, 岩壁	
ウラボシ目 Polypodiales						
	Dennstaedtiaceae	オウレンシダ	<i>Dennstaedtia wilfordii</i> (T. Moore) Christ ex C. Chr.	SG	道端	
チャセンシダ	Aspleniaceae	ヒメイワトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i> Makino	E	崩壊地, 岩表面	
ヒメシダ	Thelypteridaceae	ミヤマワラビ	<i>Thelypteris phegopteris</i> (L.) Sloss. ex Rydb.	SG	林内	
シシガシラ	Blechnaceae	オサシダ	<i>Blechnum amabile</i> Makino	E	崩壊地, 岩地	固有
メシダ	Athyriaceae	ミヤマヘビノネゴザ	<i>Athyrium rupestre</i> Kodama	SG	崩壊地, 岩地	
		ヘビノネゴザ	<i>A. yokoscense</i> (Franch. et Sav.) Christ	SG	林内, 倒木上	
オシダ	Dryopteridaceae	シノブカグマ	<i>Arachniodes mutica</i> (Franch. et Sav.) Ohwi	EG	崩壊地	
		リョウメンシダ	<i>A. standishii</i> (T. Moore) Ohwi	EG	崩壊地, 倒木上	
		オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	SG	水辺, 沢沿い, 岩上	
		シラネワラビ	<i>D. expansa</i> (C. Presl) Fraser-Jenk. et Jermy	SG	林内	
		ナンタイシダ	<i>D. maximowiczii</i> (Baker) Kuntze	SG	水辺, 岩地	
		ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i> (Kunze) C. Presl	SG	林内	
ウラボシ	Polypodiaceae	ミヤマウラボシ	<i>Selliguea veitchii</i> (Baker) H. Ohashi et K. Ohashi	E	岩壁	
種子植物 SPERMATOPHYTA						
裸子植物 GYMNOSPERMAE						
球果類 Coniferae						
マツ目 Pinales						
	Pinaceae	ウラジロモミ	<i>Abies homolepis</i> Siebold et Zucc.	ECT	水辺, 岩地	固有

マツ	Pinaceae	オオシラビソ	<i>A. mariesii</i> Mast.	ECT	道端	固有		
		シラビソ	<i>A. veitchii</i> Lindl.	ECT	尾根	固有		
		カラマツ	<i>Larix kaempferi</i> (Lamb.) Carrière	DCT	道端	植栽		
		トウヒ	<i>Picea jezoensis</i> (Siebold et Zucc.) Carrière var. <i>hondoensis</i> (Mayr) Rehder	ECT	崩壊地, 岩地	固有		
		アカマツ	<i>Pinus densiflora</i> Siebold et Zucc.	ECT	林内			
		キタゴヨウ	<i>P. parviflora</i> Siebold et Zucc. var. <i>pentaphylla</i> (Mayr) A. Henry	ECT	尾根	固有		
		コメツガ	<i>Tsuga diversifolia</i> (Maxim.) Mast.	ECT	尾根	固有		
		ストローブマツ	<i>Pinus strobus</i> L.	ECT	水辺, 沢沿い	植栽		
		<b>ヒノキ目 Cupressales</b>						
		ヒノキ	Cupressaceae	ネズコ	<i>Thuja standishii</i> (Gordon) Carrière	ECT	沢沿い, 崖上	固有
		アスナロ	<i>Thujopsis dolabrata</i> (L. f.) Siebold et Zucc.	ECT	沢沿い, 道端	固有		
<b>被子植物 ANGIOSPERMAE</b>								
<b>コショウ目 Piperales</b>								
ウマノスズクサ	Aristolochiaceae	ウスバサイシン	<i>Asarum sieboldii</i> Miq.	PH	道端			
<b>単子葉植物 MONOCOTYLEDONEAE</b>								
<b>オモダカ目 Alismatales</b>								
サトイモ	Araceae	ユモトマムシグサ	<i>Arisaema nikoense</i> Nakai	PH	道端	固有		
<b>ユリ目 Liliales</b>								
シュロソウ	Melanthiaceae	ショウジョウバカマ	<i>Helonias orientalis</i> (Thunb.) N. Tanaka	PH	水辺, 岩地			
		ツクバネソウ	<i>Paris tetraphylla</i> A. Gray	PH	林内	固有		
		ミヤマエンレイソウ	<i>Trillium tschonoskii</i> Maxim.	PH	水辺, 岩地			
		バイケイソウ	<i>Veratrum album</i> L. subsp. <i>oxysepalum</i> (Turcz.) Hultén	PH	水辺, 沢沿い			
ユリ	Liliaceae	タケシマラン	<i>Streptopus streptopoides</i> (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. <i>japonicus</i> (Maxim.) Utech et Kawano	PH	林内, 倒木上	固有		
		ハゴロモホトトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i> Maxim. var. <i>makinoana</i> (Tatew.) Hiyama	PH	道端			

ユリ	Liliaceae	ヤマホトトギス	<i>T. macropoda</i> Miq.	PH	水辺, 岩地	
キジカクシ目	Asparagales					
ラン	Orchidaceae	ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i> Blume	PH	尾根	
		クモキリソウ	<i>Liparis kumokiri</i> F. Maek.	PH	道端	
		アリドオシラン	<i>Myrmechis japonica</i> (Rchb. f.) Rolfe	PH	尾根, 登山道	
		ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> (Pers.) Ames var. <i>amoena</i> (M. Bieb.) H. Hara	PH	崩壊地, 岩地	
キジカクシ	Asparagaceae	ショウキラン	<i>Yuania japonica</i> Maxim.	PH	林内	
		マイズルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i> (A. W. Wood) A. Nelson et J. F. Macbr.	PH	林内	
イネ目	Poales					
イグサ	Juncaceae	イグサ	<i>Juncus decipiens</i> (Buchenau) Nakai	PH	水辺, 沢沿い	
		イトイ	<i>J. maximowiczii</i> Buchenau	PH	崩壊地	
イネ	Poaceae	ヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> Trin. var. <i>nukabo</i> Ohwi	PH	道端	
		ミヤマヌカボ	<i>A. flaccida</i> Hack.	PH	道端	
		コメススキ	<i>Avenella flexuosa</i> (L.) Drejer	PH	尾根	
		ヒメノガリヤス	<i>Calamagrostis hakonensis</i> Franch. et Sav.	PH	崩壊地, 岩地	
		ヒロハノコメススキ	<i>Deschampsia cespitosa</i> (L.) P. Beauv. var. <i>festucifolia</i> Honda	PH	道端	
		カモジグサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> Honda var. <i>transiens</i> (Hack.) Osada	PH	崩壊地, 岩地	
		スズメガヤ	<i>Eragrostis cilianensis</i> (All.) Link ex Janchen	TH	道端	
		ウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i> L.	PH	道端, 林縁	
		ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.	TH	林内	
カヤツリグサ	Cyperaceae	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i> L.	TH	水辺, 沢沿い	
		エナシヒゴクサ	<i>Carex aphanolepis</i> Franch. et Sav.	PH	道端, 砂利	
		メアオスゲ	<i>C. candolleana</i> H. Lév. et Vaniot	PH	道端	
		コハリスゲ	<i>C. hakonensis</i> Franch. et Sav.	PH	崩壊地, 岩地	
		カワラスゲ	<i>C. incisa</i> Boott	PH	道端	固有
		テキリスゲ	<i>C. kiotensis</i> Franch. et Sav.	PH	水辺, 岩地	固有
		ヒカゲスゲ	<i>C. lanceolata</i> Boott	PH	道端	

カヤツリグサ	Cyperaceae	アオスゲ イトアオスゲ	<i>C. leucochlora</i> Bunge <i>C. leucochlora</i> Bunge var. <i>filiculmis</i> (Franch. et Sav.) Kitag.	PH PH	林内, ギャップ 尾根	
		ミヤマカンスゲ ミノボロスゲ	<i>C. multifolia</i> Ohwi var. <i>multifolia</i> <i>C. nubigena</i> D. Don ex Tilloch et Taylor subsp. <i>albata</i> (Boott ex Franch. et Sav.) T. Koyama	PH PH	林縁 道端	固有
		ヒカゲハリスゲ ヒメスゲ ミヤマアオスゲ タガネソウ	<i>C. onoei</i> Franch. et Sav. <i>C. oxyandra</i> (Franch. et Sav.) Kudô <i>C. sachalinensis</i> F. Schmidt var. <i>longiuscula</i> Ohwi <i>C. siderosticta</i> Hance	PH PH PH PH	林縁 道端 林縁, 倒木上 崩壊地	固有
<b>真正双子葉類 EUDICOTS</b>						
キンポウゲ目	<b>Ranunculales</b>					
キンポウゲ	Ranunculaceae	ヤマトリカブト ナンタイブシ	<i>Aconitum japonicum</i> Thunb. subsp. <i>japonicum</i> <i>A. zigzag</i> H. Lév. et Vaniot subsp. <i>komatsui</i> (Nakai) Kadota	PH PH	道端 道端, 岩地	固有 固有
		ボタンヅル ハンショウヅル コセリバオウレン ミツバオウレン カラマツソウ	<i>Clematis apiifolia</i> DC. var. <i>apiifolia</i> <i>C. japonica</i> Thunb. <i>Coptis japonica</i> (Thunb.) Makino var. <i>japonica</i> <i>C. trifolia</i> (L.) Salisb. <i>Thalictrum aquilegifolium</i> L. var. <i>intermedium</i> Nakai	CW CW PH PH PH	水辺, 沢沿い 道端 林内 林内 水辺, 沢沿い	固有 固有 固有
		ミヤマカラマツ	<i>T. tuberiferum</i> Maxim.	PH	崩壊地, 岩上	
ユキノシタ目	<b>Saxifragales</b>					
カツラ	Cercidiphyllaceae	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.	DBT	林内	
		ヒロハカツラ	<i>C. magnificum</i> (Nakai) Nakai	DBT	林内	固有
スグリ	Grossulariaceae	ザリコミ	<i>Ribes maximowiczianum</i> Kom.	DBS	水辺, 岩地	
ユキノシタ	Saxifragaceae	チダケサシ アカショウマ	<i>Astilbe microphylla</i> Knoll <i>A. thunbergii</i> (Siebold et Zucc.) Miq. var. <i>thunbergii</i>	PH PH	道端 崩壊地	固有 固有

ユキノシタ	Saxifragaceae	ツルネコノメソウ	<i>Chrysosplenium flagelliferum</i> F. Schmidt	PH	水辺, 沢沿い	
		チシマネコノメソウ	<i>C. kamtschaticum</i> Fisch. ex Ser.	PH	崩壊地, 岩上	
		ヤグルマソウ	<i>Rodgersia podophylla</i> A. Gray	PH	崩壊地, 砂防ダム	
		ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> Hook. f. var. <i>alpina</i> (Matsum. et Nakai) Nakai	PH	水辺, 岩地	
		ズダヤクシュ	<i>Tiarella polyphylla</i> D. Don	PH	水辺, 沢沿い	
ブドウ目	<b>Vitales</b>					
ブドウ	Vitaceae	ヤマブドウ	<i>Vitis coignetiae</i> Pulliat ex Planch.	CW	林内	
マメ目	<b>Fabales</b>					
マメ	Fabaceae	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i> L.	PH	橋上, 砂利	帰化
バラ目	<b>Rosales</b>					
バラ	Rosaceae	アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i> (Siebold et Zucc.) Decne.	DBT	林内	
		ウラジロノキ	<i>A. japonica</i> Decne.	DBT	尾根	固有
		ヤマブキショウマ	<i>Aruncus dioicus</i> (Walter) Fernald var. <i>kamtschaticus</i> (Maxim.) H. Hara	PH	道端	
		ミヤマザクラ	<i>Cerasus maximowiczii</i> (Rupr.) Kom.	DBT	林内	
		チシマザクラ	<i>C. nipponica</i> (Matsum.) Ohle ex H. Ohba var. <i>kurilensis</i> (Miyabe) H. Ohba	DBS	林内	
		タカネザクラ	<i>C. nipponica</i> (Matsum.) Ohle ex H. Ohba var. <i>nipponica</i>	DBS	尾根	
		シロバナノヘビイチゴ	<i>Fragaria nipponica</i> Makino	PH	水辺, 沢沿い	
		ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i> Thunb.	PH	道端	
		ズミ	<i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vriese	DBS	林内	
		シウリザクラ	<i>Padus ssiiori</i> (F. Schmidt) C.K. Schneid.	DBT	林内	
		ツルキンバイ	<i>Potentilla rosulifera</i> H. Lév.	PH	道端	
		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i> Bunge	DBS	林内	
		ミヤマウラジロイチゴ	<i>R. idaeus</i> L. subsp. <i>nipponicus</i> Focke	DBS	林内	
		エビガライチゴ	<i>R. phoenicolasius</i> Maxim.	DBS	林内	
		ミヤマニガイチゴ	<i>R. subcrataegifolius</i> (H. Lév. et Vaniot) H. Lév.	DBS	林内, ギャップ	

バラ	Rosaceae	ナナカマド サビバナナカマド	<i>Sorbus commixta</i> Hedl. <i>S. commixta</i> Hedl. var. <i>rufoferruginea</i> C. K. Schneid.	DBST DBST	林内 尾根	固有
ニレ	Ulmaceae	ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> (Rehder) Nakai	DBT	ギャップ	
イラクサ	Urticaceae	ヤマミズ	<i>Pilea japonica</i> (Maxim.) Hand.-Mazz.	TH	道端	
<b>ブナ目 Fagales</b>						
ブナ	Fagaceae	ブナ ミズナラ	<i>Fagus crenata</i> Blume <i>Quercus crispula</i> Blume	DBT DBT	道端, 崩壊地 林内	固有
クルミ	Juglandaceae	サワグルミ	<i>Pterocarya rhoifolia</i> Siebold et Zucc.	DBT	道端	
カバノキ	Betulaceae	ミヤマヤシャブシ ケヤマハンノキ ヤハズハンノキ ミヤマハンノキ	<i>Alnus firma</i> Siebold et Zucc. f. <i>hirtella</i> (Franch. et Sav.) H. Ohba <i>A. hirsuta</i> (Spach) Turcz. ex Rupr. var. <i>hirsuta</i> <i>A. matsumurae</i> Callier <i>A. viridis</i> (Chaix) Lam. et DC. subsp. <i>maximowiczii</i> (Callier) D. Löve	DBT DBT DBS	林内 道端 崩壊地	固有
		ネコシデ チョウセンミネバリ ダケカンバ ミズメ ウダイカンバ シラカンバ	<i>Betula corylifolia</i> Regel et Maxim. <i>B. costata</i> Trautv. <i>B. ermanii</i> Cham. <i>B. grossa</i> Siebold et Zucc. <i>B. maximowicziana</i> Regel <i>B. platyphylla</i> Sukaczew var. <i>japonica</i> (Miq.) H. Hara	DBT DBT DBT DBT DBT DBT	尾根, 登山道 林縁 尾根 林内 道端 尾根	固有   固有 固有
<b>ニシキギ目 Celastraceae</b>						
ニシキギ	Celastraceae	ツルウメモドキ オニツルウメモドキ カントウマユミ	<i>Celastrus orbiculatus</i> Thunb. var. <i>orbiculatus</i> <i>C. orbiculatus</i> Thunb. var. <i>strigillosus</i> (Nakai) H. Hara <i>Euonymus sieboldianus</i> Blume var. <i>sanguineus</i> Nakai	CW CW DBST	林内 林内 林内	

カタバミ目	<b>Oxalidales</b>							
カタバミ	Oxalidaceae	コミヤマカタバミ カタバミ	<i>Oxalis acetosella</i> L. <i>O. corniculata</i> L.	PH PH	林内 道端			
キントラノオ目	<b>Malpighiales</b>							
ヤナギ	Salicaceae	バッコヤナギ オノエヤナギ	<i>Salix caprea</i> L. <i>S. udensis</i> Trautv. et C. A. Mey.	DBT DBST	尾根 道端			
スミレ	Violaceae	ケタチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> A. Gray f. <i>pubescens</i> (Nakai) M. Mizush.	PH	崩壊地, 砂地			
		タチツボスミレ アオイスミレ ツボスミレ	<i>V. grypoceras</i> A. Gray var. <i>grypoceras</i> <i>V. hondoensis</i> W. Becker et H. Boissieu <i>V. verecunda</i> A. Gray	PH PH PH	水辺, 沢沿い 道端 林縁			
オトギリソウ	Hypericaceae	ニッコウオトギリ イワオトギリ	<i>Hypericum nikkoense</i> Makino <i>H. senanense</i> Maxim. subsp. <i>mutiloides</i> (R. Keller) N. Robson	PH PH	崩壊地, 岩地 道端	固有 固有		
フウロソウ目	<b>Geraniales</b>							
フウロソウ	Geraniaceae	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i> Siebold ex Lindl. et Paxton	PH	道端			
フトモモ目	<b>Myrtales</b>							
アカバナ	Onagraceae	ミヤマタニタデ ケゴンアカバナ イワアカバナ	<i>Circaea alpina</i> L. subsp. <i>alpina</i> <i>Epilobium amurense</i> Hausskn. <i>E. amurense</i> Hausskn. subsp. <i>cephalostigma</i> (Hausskn.) C. J. Chen, Hoch et P. H. Raven	PH PH PH	道端 道端 水辺, 沢沿い, 岩上			
ムクロジ目	<b>Sapindales</b>							
ウルシ	Anacardiaceae	ツタウルシ	<i>Toxicodendron orientale</i> Greene	CW	林内			
ムクロジ	Sapindaceae	オオモミジ ハウチワカエデ コミネカエデ イトマキイタヤ ウリハダカエデ オオイタヤメイゲツ	<i>Acer amoenum</i> Carrière <i>A. japonicum</i> Thunb. <i>A. micranthum</i> Siebold et Zucc. <i>A. pictum</i> Thunb. subsp. <i>savatieri</i> (Pax) H. Ohashi <i>A. rufinerve</i> Siebold et Zucc. <i>A. shirasawanum</i> Koidz.	DBT DBT DBT DBT DBT DBT	林内 林内 沢沿い, 崖上 道端, 岩上 道端 道端	固有 固有 固有 固有 固有 固有		

ムクロジ	Sapindaceae	コハウチワカエデ オガラバナ	<i>A. sieboldianum</i> Miq. <i>A. ukurunduense</i> Trautv. et C. A. Mey.	DBT DBST	林内 尾根	固有
ミカン	Rutaceae	キハダ	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	DBT	林内	
<b>アオイ目 Malvales</b>						
アオイ	Malvaceae	シナノキ	<i>Tilia japonica</i> (Miq.) Simonk.	DBT	沢沿い, 崖上	
<b>アブラナ目 Brassicales</b>						
アブラナ	Brassicaceae (Crucifera)	ヤマハタザオ オオバタネツケバナ	<i>Arabis hirsuta</i> (L.) Scop. <i>Cardamine scutata</i> Thunb.	WH WH	水辺, 沢沿い 水辺, 沢沿い	
<b>ナデシコ目 Caryophyllales</b>						
タデ	Polygonaceae	クリンユキフデ イタドリ	<i>Bistorta suffulta</i> (Maxim.) H. Gross <i>Fallopia japonica</i> (Houtt.) Ronse Decr. var. <i>japonica</i>	PH PH	水辺, 沢沿い 道端	
		メイゲツソウ	<i>F. japonica</i> (Houtt.) Ronse Decr. var. <i>japonica</i> f. <i>colorans</i> (Makino) Yonek.	PH	崩壊地, 岩地	
		ヤナギタデ タニソバ ハナタデ	<i>Persicaria hydropiper</i> (L.) Delarbre <i>P. nepalensis</i> (Meisn.) H. Gross <i>P. posumbu</i> (Buch.-Ham. ex D. Don) H. Gross	TH TH TH	林内, ギャップ 道端 林内, ギャップ	
ナデシコ	Caryophyllaceae	オオヤマフスマ ミミナグサ	<i>Arenaria lateriflora</i> L. <i>Cerastium fontanum</i> Baumg. subsp. <i>vulgare</i> (Hartm.) Greuter et Burdet var. <i>angustifolium</i> (Franch.) H. Hara	PH PH	林内 道端	
		ワチガイソウ ヒゲネワチガイソウ ツメクサ ミヤマハコベ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> (Maxim.) Pax <i>P. palibiniana</i> (Takeda) Ohwi <i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi <i>Stellaria sessiliflora</i> Y. Yabe	PH PH TH,WH PH	水辺, 沢沿い 道端 道端 道端	
<b>ミズキ目 Cornales</b>						
ミズキ	Cornaceae	ゴゼンタチバナ	<i>Cornus canadensis</i> L.	PH	尾根	
アジサイ	Hydrangeaceae	ノリウツギ	<i>Hydrangea paniculata</i> Siebold	DBS	林内	

アジサイ	Hydrangeaceae	ツルアジサイ	<i>H. petiolaris</i> Siebold et Zucc.	CW	林内	
		バイカウツギ	<i>Philadelphus satsumi</i> Siebold ex Lindl. et Paxton	DBS	林内	固有
		ニッコウバイカウツギ	<i>P. satsumi</i> Siebold ex Lindl. et Paxton f. <i>nikoensis</i> (Rehder) Ohwi ex Yonek.	DBS	林内	
		イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i> Siebold et Zucc.	CW	道端	
<b>ツツジ目 Ericales</b>						
ツリフネソウ	Balsaminaceae	キツリフネ	<i>Impatiens noli-tangere</i> L.	TH	水辺, 沢沿い	
サクラソウ	Primulaceae	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> Thunb.	PH	道端	
マタタビ	Actinidiaceae	サルナシ	<i>Actinidia arguta</i> (Siebold et Zucc.) Planch. ex Miq.	CW	林内	
		ミヤママタタビ	<i>A. kolomikta</i> (Maxim. et Rupr.) Maxim.	CW	ギャップ	
ツツジ	Ericaceae	ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i> Miq.	EBS	尾根	
		ホツツジ	<i>Elliottia paniculata</i> (Siebold et Zucc.) Hook. f.	DBS	道端	固有
		サラサドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i> (Miq.) G. Nicholson	DBS	尾根	固有
		シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopithys</i> L.	PH	尾根, ササ林床	
		ギンリョウソウモドキ	<i>M. uniflora</i> L.	PH	尾根	
		ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i> (D. Don) H. Hara	PH	道端	
		ツガザクラ	<i>Phyllodoce nipponica</i> Makino	EBS	崩壊地	
		コバノイチヤクソウ	<i>Pyrola alpina</i> Andres	PH	道端	固有
		ジンヨウイチヤクソウ	<i>P. renifolia</i> Maxim.	PH	尾根	
		ハクサンシャクナゲ	<i>Rhododendron brachycarpum</i> D. Don ex G. Don	EBS	尾根	固有
		アズマシャクナゲ	<i>R. degronianum</i> Carrière	EBS	林縁	固有
		コヨウラクツツジ	<i>R. pentandrum</i> (Maxim.) Craven	DBS	林内, 倒木上	
		シロヤシオ	<i>R. quinquefolium</i> Bisset et S. Moore	DBS	崩壊地	固有
		コメツツジ	<i>R. tschonoskii</i> Maxim.	DBS	崩壊地	
		トウゴクミツバツツジ	<i>R. wadanum</i> Makino	DBS	崩壊地	固有
		コケモモ	<i>Vaccinium vitis-idaea</i> L.	EBS	尾根	
		ヒメウスノキ	<i>V. yatabei</i> Makino	DBS	林縁, 倒木上	固有
<b>リンドウ目 Gentianales</b>						
アカネ	Rubiaceae	クルマムグラ	<i>Galium japonicum</i> Makino	PH	林内	
		エゾノヨツバムグラ	<i>G. kamschaticum</i> Steller ex Roem. et Schult. var. <i>kamschaticum</i>	PH	林内	

アカネ	Rubiaceae	ミヤマムグラ	<i>G. paradoxum</i> Maxim. subsp. <i>franchetianum</i> Ehrend. et Schönb.-Tem.	PH	水辺, 沢沿い	
リンドウ	Gentianaceae	オククルマムグラ	<i>G. trifloriforme</i> Kom.	PH	水辺, 沢沿い	
キョウチクトウ	Apocynaceae	フデリンドウ	<i>Gentiana zollingeri</i> Fawc.	TH	林縁	
		イケマ	<i>Cynanchum caudatum</i> (Miq.) Maxim.	CH	水辺, 沢沿い	
<b>シソ目 Lamiales</b>						
モクセイ	Oleaceae	ミヤマアオダモ	<i>Fraxinus apertisquamifera</i> H. Hara	DBT	林内	固有
		ケアオダモ	<i>F. lanuginosa</i> Koidz. f. <i>lanuginosa</i>	DBT	尾根	
		ミヤマイボタ	<i>Ligustrum tschonoskii</i> Decne.	DBS	水辺, 沢沿い, 岩壁	
オオバコ	Plantaginaceae	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> L.	PH	道端	
		ヤマクワガタ	<i>Veronica japonensis</i> Makino	PH	道端	固有
シソ	Lamiaceae (Labiatae)	イヌトウバナ	<i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) H. Hara var. <i>micranthum</i>	PH	林内	
		ミヤマトウバナ	<i>C. micranthum</i> (Regel) H. Hara var. <i>sachalinense</i> (F. Schmidt) T. Yamaz. et Murata	PH	林内	
		ヤマトウバナ	<i>C. multicaule</i> (Maxim.) Kuntze	PH	道端	
		ナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia ciliata</i> (Thunb.) Hyl.	TH	橋上, 砂利	
		テンニンソウ	<i>Leucoscepttrum japonicum</i> (Miq.) Kitam. et Murata	PH	崩壊地, 岩地	固有
		ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> Blume var. <i>miquelianum</i> (Maxim.) H. Hara	PH	林内	
サギゴケ	Mazaceae	サギゴケ	<i>Mazus miquelii</i> Makino	PH	林内, ギャップ	
		トキワハゼ	<i>M. pumilus</i> (Burm. f.) Steenis	TH	道端	
ハエドクソウ	Phrymaceae	ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i> Benth.	PH	水辺, 沢沿い	
		ハエドクソウ	<i>Phryma leptostachya</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (H. Hara) Kitam.	PH	水辺, 沢沿い, 岩壁	
ハマウツボ	Orobanchaceae	トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> L. subsp. <i>teucrifolia</i> (M. Bieb. ex Steven) T. Yamaz. var. <i>caespitosa</i> Koidz.	PH	崩壊地	固有
<b>モチノキ目 Aquifoliales</b>						
モチノキ	Aquifoliaceae	ツルツゲ	<i>Ilex rugosa</i> F. Schmidt	EBS	沢沿い, 倒木上	
		ホソバツルツゲ	<i>I. rugosa</i> F. Schmidt var. <i>stenophylla</i> (Koidz.) Sugim.	EBS	尾根	

キク目 **Asterales**

キキョウ	Campanulaceae	ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i> (Siebold et Zucc.) Miq.	PH	崩壊地, 砂防ダム	
		ケソバナ	<i>A. remotiflora</i> (Siebold et Zucc.) Miq. f. <i>hirsuta</i> (Honda) Sugim. ex Yonek.	PH	林内	
		ヤマホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> Lam. var. <i>hondoensis</i> (Kitam.) Ohwi	PH	道端	固有
キキョウ	Campanulaceae	ホタルブクロ	<i>C. punctata</i> Lam. var. <i>punctata</i>	PH	橋上, 砂利	
		タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosus</i> (Wall.) Hook. f. et Thomson	PH	林内	
キク	Asteraceae (Compositae)	オクモミジハグマ	<i>Ainsliaea acerifolia</i> Sch.Bip. var. <i>subapoda</i> Nakai	PH	水辺, 沢沿い, 岩壁	
		ヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> (L.) Benth. et Hook. f. subsp. <i>margaritacea</i>	PH	道端	
		ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> Willd. var. <i>maximowiczii</i> (Nakai) H. Hara	PH	崩壊地, 岩地	
		シロヨメナ	<i>Aster ageratoides</i> Turcz. var. <i>ageratoides</i>	PH	道端	
		ホソバガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i> Siebold et Zucc. var. <i>abrotanoides</i> (Matsum. et Koidz.) H. Koyama	PH	林内, 岩上	固有
		ナンブアザミ	<i>Cirsium makinoi</i> Kadota	PH	崩壊地, 岩地	固有
		トネアザミ	<i>C. nipponicum</i> (Maxim.) Makino var. <i>incomptum</i> (Maxim.) Kitam.	PH	水辺, 沢沿い	固有
		ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i> Muhl. ex Willd.	PH	道端	帰化
		ヨツバヒヨドリ	<i>Eupatorium glehnii</i> F. Schmidt ex Trautv.	PH	林内	
		ヒヨドリバナ	<i>E. makinoi</i> T. Kawahara et Yahara	PH	林内	
		ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> (Thunb.) Tzvelev subsp. <i>dentatum</i>	PH	尾根	
		イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i> A. Gray	PH	道端	
		コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i> (Maxim.) J. H. Pak et K. Bremer	TH	崩壊地, 岩地	
		ヤブタビラコ	<i>L. humile</i> (Thunb.) J. H. Pak et K. Bremer	TH	道端	
		フクオウソウ	<i>Nabalus acerifolius</i> Maxim.	PH	崩壊地, 岩地	固有
		サワギク	<i>Nemosencio nikoensis</i> (Miq.) B. Nord.	PH	道端	固有
		カニコウモリ	<i>Parasenecio adenostyloides</i> (Franch. et Sav. ex Maxim.) H. Koyama	PH	崩壊地, 岩地	固有
		ヤマタイミンガサ	<i>P. yatabei</i> (Matsum. et Koidz.) H. Koyama	PH	水辺, 岩地	固有

キク	Asteraceae (Compositae)	ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i> Sch. Bip. ex Nakai	DBS	水辺, 岩地	
		コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> L. subsp. <i>japonica</i> (Thunb.) Krylov	TH	崩壊地, 岩地	
		ヤマニガナ	<i>Pterocypsela elata</i> (Hemsl.) C. Shih	PH	林内	
		シラネアザミ	<i>Saussurea nikoensis</i> Franch. et Sav.	PH	道端, 岩地	固有
		キオン	<i>Senecio nemorensis</i> L.	PH	崩壊地, 岩地	
		アキノキリンソウ	<i>Solidago virgaurea</i> L. subsp. <i>asiatica</i> (Nakai ex H. Hara) Kitam. ex H. Hara	PH	尾根, ササ林床	
		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i> Weber ex F. H. Wigg.	PH	道端	帰化
マツムシソウ目	<b>Dipsacales</b>					
レンプクソウ	Adoxaceae	オオカメノキ	<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim.	DBST	崩壊地	
スイカズラ	Caprifoliaceae	ニシキウツギ	<i>Weigela decora</i> (Nakai) Nakai	DBS	道端	固有
		キバナウツギ	<i>W. maximowiczii</i> (S. Moore) Rehder	DBS	道端	固有
セリ目	<b>Apiales</b>					
ウコギ	Araliaceae	タラノキ	<i>Aralia elata</i> (Miq.) Seem.	DBST	道端	
		コシアブラ	<i>Chengiopanax sciadophylloides</i> (Franch. et Sav.) C. B. Shang et J. Y. Huang	DBT	尾根	固有
		オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i> Maxim.	PH	道端, 林縁	
		ヒメチドメ	<i>H. yabei</i> Makino var. <i>yabei</i>	PH	道端	固有
		ハリギリ	<i>Kalopanax septemlobus</i> (Thunb.) Koidz.	DBT	尾根	
セリ	Apiaceae (Umbelliferae)	シラネセンキュウ	<i>Angelica polymorpha</i> Maxim.	PH	崩壊地, 砂防ダム	
		イワセントウソウ	<i>Pternopetalum tanakae</i> (Franch. et Sav.) Hand.- Mazz.	PH	水辺, 沢沿い	
		ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i> (Houtt.) DC.	WH	道端	